

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 ENTOWA	代表者	副島孝嗣	法人・ 事業所 の特徴	利用者様お一人お一人が、社会・地域の中の一員という事を実感していただけるように、人と人、そして地域との関わりを大切にしております。 地域の方が気軽に足を運ぶ事のできる事業運営を行い、ぬくもりを感じられる事業所を目指していきます。				
事業所名	小規模多機能型居宅 介護事業所 エフ・ステージ桜馬場	管理者	深山 さつき						

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	1人	1人	1人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報共有のため、個別ノートの記載を継続する。</li> <li>● カンファレンスの開催時間を変更するなど、情報共有の時間を作る。</li> </ul>	個人ノートやカンファレンスノートを活用し情報共有することができた。人員不足と感染症による対応を行うため、カンファレンスを行う時間の確保が難しく開催する機会が減少した。	人員不足と感染症による対応のため時間の確保に苦慮されたようですが、状況に合わせてカンファレンスの開催時間も調整されており、情報共有に努められたことが伺えます。時間の確保が難しい場合はカンファレンスノートを活用し、利用者の状況把握や課題の共有・対応に引き続き努めていただければと思います。	その日のカンファレンスの開催時刻を設定し、その間に職員が集まれるよう業務を調整する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 花壇の手入れを継続し、地域の方々が和める環境作りを行っていく。</li> <li>● 玄関に掲示している「頭の体操」を工夫し、地域の方々が少しでも事業所と関わりやすい環境づくりを行う。</li> <li>● 職員の配置に余裕がある時は、リサイクル活動にも参加を行う。</li> </ul>	花壇の手入れは、可能な限り実施することができた。「頭の体操」を毎月掲示し、自治会報にも掲載することができた。子供から高齢者まで足を止めて見ていただくことができた。リサイクル活動は、自治会で継続困難となり、参加することができなかった。	花壇のお手入れやベンチの設置、近隣の環境整備などにも努められており、地域の方が立ち寄り易い工夫をされていると感じます。することができなかつた。感染症の影響で事業所内へお伺いする機会は殆どありませんでしたが、訪問時見える範囲ではいつも室内は明るく、清潔な環境が保たれており、居心地の良い空間作りの工夫ができていた。	事業所内の植栽を増やし、ご利用者様にとって居心地の良い空間作りをおこなう。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員の勤務時間を考慮し、地域の行事などに積極的に参加を行っていく。</li> </ul>	毎月の自治会定例会に参加できた。年間行事を通して、夏祭りの遊具貸出や、精霊船作成のための竹切り参加、精霊流し参加することができた。	利用者によっては民生委員の方と生活環境なども含め話をされるなど、地域の中の一つの資源として事業所が機能しておられるを感じます。自治会への参加や自治会誌への連載、ベンチの設置など施設から地域に出ていく形でのアプローチを	資源ごみ回収など地域の活動に参加し、地域への貢献度を上げる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にある資源のリストを作成し、目的に応じて繋がりが持てるようにする。</li> <li>・包括支援センターや自治会、民生員などを通じて地域の資源発掘を</li> </ul>

			続けておられます。今後も積極的に地域の多世代の交流のきっかけや課題に合わせた協働など気軽に相互の協力が得られるような地域にとって親しみやすい身近な施設を目指していただければと思います。	おこなう。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会や民生委員、包括と連携を図り、利用者様が地域で安心して生活できる環境作りを行う。</li> </ul>	包括支援センターを始め、市役所保険課の方や民生委員と協力しご利用者様をサポート支援することができた。病院や認知症専門員を巻き込み、地域ケア会議も開催することができた。	地域の店を定期的に利用して出前対応されたり、自治会活動や民生委員の方と生活環境など含め話をされるなど情報交換の機会などは持っていただけだと思います。近所の心配な方がいらっしゃると民生委員や包括も引き続き連絡を取り合っていただいていることで、必要に協働できる関係性を築くことができていると感じます。	在宅生活を支えるうえでご家族とも情報共有を行い、チームとしてケアを実践していく。 送迎中など地域の方々との交流や地域活動を通じて、介護事業所であることの認識を高める
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>書面のやり取りに留めず、オンラインの活用も検討して対応していく。</li> </ul>	オンライン活用はできなかった。	事業所評価で把握できる範囲では事業所の取り組みや地域との協働、改善への努力が伺えます。可能であれば状況に応じて書面会議等での状況の共有等もできればと思います。少しでも早く対面での情報交換ができ、運営会議においても事業所の取り組みや地域から意見を直接伺える機会や状況を迎える事を切に願います。	感染症予防に努めながら、運営推進会議開催を行う。 事業所から決まった人員の参加だけでなく、介護員や専門職の参加を行っていく。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署や警察署の指示を仰ぎながら、避難計画の策定や訓練の実施を行っていく。</li> <li>地域の避難訓練において参加要請があれば、積極的に参加を行う。</li> <li>BCP（事業継続計画）の作成に努める。</li> </ul>	定期的に消防訓練の実施ができた。地域の避難訓練に関しては、感染症のこともあり、開催されていなかったため参加できなかった。	救急対応や避難訓練等の継続は、今後の対策に繋がると思います。次年度以降も消防や警察の指示もいただきながら、火災、風水害、地震、不審者対策等あらゆる事態を想定した訓練や対策の検討、実施を進めなければと思います。  施設内での訓練の状況やその問題点、地域や関係機関に協力いただきたいことなども継続に発信していただき、いざという時の協力体制の構築にも繋がるよう働きかけていただければと思います	BCP（事業継続計画）の作成に努める。 AED の実施方法や、消火器の使用方法を訓練にて学ぶ。

